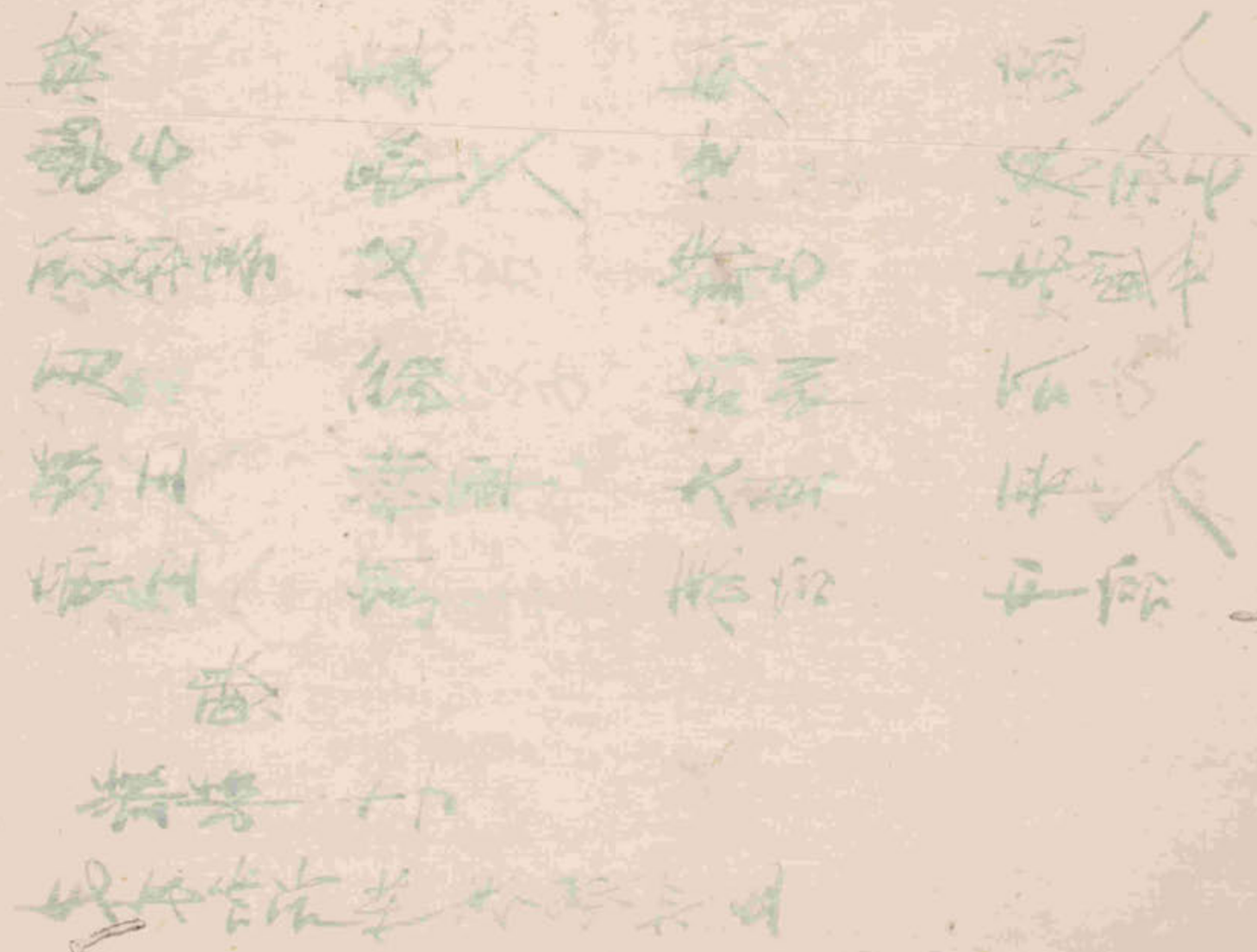
文未

雜十七　吹五　吹六



文本和行抄 巻第四 五

雜部 十七

類

帝王　院　春宮　中宮

親王　將軍　大臣　殿上人

民　翁　法師　尼

傾城　父　雜子　未通女

鳥子　婦人　女　我妹子

妹　妻　使　商人

海人　夷　田子　返

遊女　遊士　傀儡　樵夫

山人　健男　長　賤人

漁翁　奴子　星子

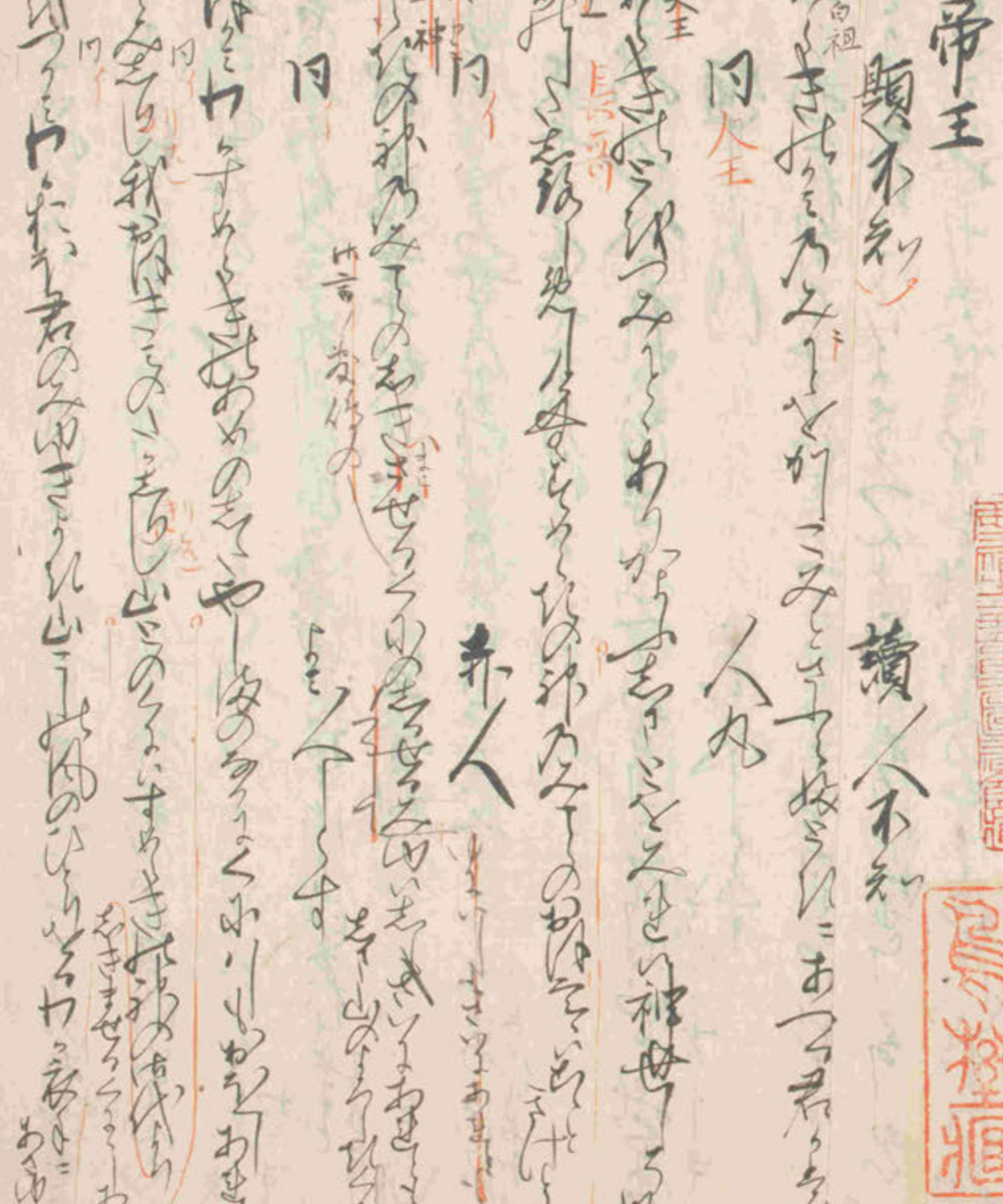
唐人　楊貴妃　李夫人　王昭君

上陽人　陵園妾

帝王

題不知

讀人不知



四百五十
をかきはかりかくのみならしひさかたのあまてるかみのあきつきのわれのみ

四百二十
やすみしゝわか大君のおほみふねかへりこむ万代にかくしもあらん 人丸

四百二十七
まきもくのあなしのやまのさくらはなこゝろもしるくよそに見つゝや

四百二十七
大君のみことかしこみあらしをのたはれこゝろ

神亀五年秋八月作歌 笠金村

百九
あらしをのひさくらせとのよもひとかはなさくをのうへとこゝにあれは
ひなみれなかれと

天平元年己巳十二月作歌 同

百九
うつせみの人なれはかはなさけをおもひてもとすかたのやまとしまの
いろおもふすかたまさかる

題しらす よみ人しらす

万
わかみともあそたれとすめかみのつきてまつりつかへまつる

四百二
我こゝろみよをこそはなさかんとおもへりけれはしかれは

四百
たかまとのをかのやましろのせかれつゝみのまつかくれなかしよひしれ

百十二
たはれのみよねつゝあかねすきはりつゝみてさはなくも
長歌 中納言家持

すゝきのうへのよのさくらしくやきもこゝははまさりほとゝつも
題しらす 角丸

百三
あまのかはきりの松原みつゝあれはわかまちしきみかへりこそ
よみ人しらす

百十二
ほとゝきすなきやくはかたかみをくらきにやまとなるしも

百二
わかきみのやまのやまのはのかくれをみれはやまとやとさらむ

百三 金集
やすみしゝわか大君のそらみつやまとにくもをりしるをなみ

百三
同 人丸

やすみしわかたはれのみかたひのひかみつにたはれさきのなみ
春日王

[illegible]

同

[illegible]

長多院入道二位殿家五十ヶ日祝

大納言佐房

院

正治二年百ヶ

後京極摂政

[illegible]

同

[illegible]

同

後鳥羽

[illegible]

春宮

正治二年百ヶ

後京極摂政

[illegible]

百ヶ日祝春宮

[illegible]

[illegible]

安七年春宮御方三ヶ日見花

大蔵卿隆博

[illegible]

中宮

寛元元年女院入内ニ御所

[illegible]

後二条家隆

むかしみしくもゐのちとせはしまりてちよの君のためしにそひく

洞院摂政家百首　　藻壁門院但馬

月もなほ君にかはらぬしきしまのちよのためしやかすならん

親王

嘉元仙洞御百首　親王家五十首にて祝　　野宮左大臣

色かへぬ竹のみとりのふかきよをくりかへしてもちよのためしに

同　　大蔵卿有家

よろつよをまつのみとりにたとへても君のちとせをいはふなりけり

弘安元年百首　　従二位行家

鶴のすむたかのゆく竹の園のちよのためしにかさねあはせて

同　　民部卿為家

朗詠
三尺剣光氷
在手二張弓
勢月当心

君か代は竹のみとりのいろそへてちよのためしをかさねそしらぬ

将軍

家集の中に　　前征夷将軍

下の坊のやよひのはしめまてもかはらぬ色そ君か代のため

大臣

建保二年内大臣家百首にて祝　　従二位家隆

かすかやまいのるこゝろのさかきはのかはらぬいろにたちかへる哉

同　　大蔵卿有家

かすかやまひくこゝろのまつかえにかけてそいのる君か代のため

同　　前大納言

代々をへてかすかの山のまつかえのときはのいろをいはふなりけり

題しらす　聖武天皇御製

ますらをのこゝろおもほゆおほきみのみことのさきをきけはたうとみ

漁人

千五百番歌合　中三のみこ

かきほなるむしろもくつをほす世にまた浦人のしほたるゝ哉

同　家長朝臣

草まくらむすはぬ夜はのかりねにもしほたれ浦の[illegible]浦人

文永二年毎日一首中　民部卿為家

[illegible]松の緑よりさかん時をしる[illegible]浦人

洞院摂政家百首述懐　定家

[illegible]浦人

民

御集五十首の中　後京極摂政

おほけなき袖なりなから世中のうき民をおほふへきはなく

百首の中　後一條入道関白

いつまてか民をはなきにしてなくさめてよの中のうき[illegible]

毎日一首中民　為家

よしさらは民のつきのみつき[illegible]

建長二年毎日一首中

いつしかも民のいとなみ小田のはら[illegible]

五月雨の[illegible]民の[illegible]

千五百番歌合三の御子に好風吹[illegible]林塘中施

定家

家隆卿

障子

俊成

家隆卿

六帖類

建長元年百首の内

中納言因信卿

吉野川の紅葉と題せる歌

六帖類

中納言

三山

百首歌

六帖

衣笠内大臣

正三位知家卿

六帖ひ　むさ

世中にきさらのおきなのむさぼりやうにてきさらぎやよひ

正治二年百

いつかはこのおきなのかくれんとおもへとも

六百番歌合

わかるるはなをかなしみてとくこそちりはてぬ

はるかすみ

六帖

代をへてくちもしらぬかさるはつきてはなのあるかはるかすみ

六帖

はるかすみ

重之

をちこちにあこのそらやはるかすみ

俊頼朝臣

仲實朝臣

拾遺

春登丘遠望

花ぞ上略

法師

六帖題しらず

西行

ちりはてぬ

あらの山おそくひらけをはるかすみ

光俊

ちりなくあらの山ぞ

同

信實

同

尼

六帖類尼

衣笠内大臣

同

西三條入道家

同

同

信俊卿

俊海寒

三百六十首

好忠

大アそめ

父

類

貫之

同

拾遺集 同
六〇 あはれなのおやのいさめをまもりつゝおもふ時のわかさなれは
伊勢

家集中
たらちねのおやのいさめを思ふにもわすれぬ事を心て
匡房卿

六帖雑文
知家

新六二
かれそめのこゝろ世なれぬ袖をかけつゝやからすみ袖の神
同類
中務卿

君のため人をいつくしふかくおやをいつくしむらん

雑子
親しき人

百七
みとり子のたのみもいかにちのみやおもかけもなし

同
ゆせこそまつしかのたえまもつゝみねもる

御集
花山院御製
いまいくよ松のみとりに君かつむおもいさしおもふやこゝろ

新六二
六帖題
衣笠内大臣
みとり子のおさなき子のあやまちのかゝりもなし

同
為家
あそひゆくおやこのちよにこの世にみちのくにまつ

同
知家
千代いはひかけてまたをさなきのそめしきのいはひのこと

同
光俊
ひくさかのあこのおもかけみとり子のわかれてもさそむ

同祝
信実
わかさつの中まゆみのいはひのこゝろさしつけて

文集曰、眼前唯覚少年多 春刊 晩

定家 卿

たれをかもあはれわかきにとみてくるしきはれしらぬものゝ雲

未通女

百十四
題しらず 人丸

をとめこか袖ふる山のみつかきのひさしき世よりおもひそめてき

百十
陸奥国云 よみ人しらず

[illegible]

百九
題しらず 玉鬘丸

[illegible]

百九
長三の 内

[illegible]

百五
題しらず よみ人しらず

君をまつ松浦のうらのをとめこはとこよのくにのあまをとめかも

文安日云 宗于朝臣

[illegible]

逸書六七年三月五日高橋忠息所詔人 よみ人しらず

ちはやふる神しはいさいまうすめのかはやまとゆふうつゝのかね

拾遺集 花山院御製

玉のをはぬきてこゝろもひかれのましはあはれにやすなかりける

永久四年百首 妓女 神祇伯顕仲 京刊 卿

をとめこかすそのしまのあまもろもそてのしらなみかけてみするらむ

家集 をとめ 俊頼

とゝめこし人のとゝめぬ涙かなかへるま袖を思ひさらなや

光明峯寺入道摂政家百首

定家

ひろさは池の月はきよみとてとゝめぬ袖にやとるなりけり

熊野山ふもとの

為家

とゝめぬ袖かしほれはこのはるの山の桜花かな

家集

西行上人

いろ多き秋をとゝめぬ心せよ情ある風の浪さそふらし

此名の磨風のふく人もとよみなみ海のきこえかさ

みやきあはれとやよるとも

百首で冬の

定家

とこさ来はとゝめぬ袖の雪ちるよみそら方の秋

内イ

ちる雪にみとりもわかて山姫の袖の色の

衣笠内大臣

新六五 六帖

むすふてのしつくにとめぬすゝしさをおもひおくともわすれやはする

御集 家

中務のみこ

冬されはちるせとめぬ袖さへてゐまゝく玉もくたけ

建長八年百首歌合

前大納言顕朝卿

このねぬるよはのとゝめぬ涙をは心のうちにいかゝかくさん

題しらす

人しれ

夜もすからあさくてかゝりしわすれなむあつまとゝめぬ忘れさりけり

あつまくたりにまかりて

源光行

かの袖の風にさそはれ白雲とゝめぬ袖にみる

法の浜の記に田子の浦にてちるいて富士の雪

[illegible]

[illegible]

白衣美女[illegible]

[illegible]

鴻子

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

婦人

[illegible]

後鳥羽院

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

家集

[illegible]

女

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

我妹子

題しらす　よみ人しらす

万十一 ひとめもるあはさるものはやきもきも（？）あひみてこそは恋まさりけれ

同 わきもこにあはすひさしもうましもの あへたちはなのこけむすまてに

同 わきもこをよそにおもへは（？）ゆふされはかはの（？）くまわに（？）なきつゝそゆく

家集 いもかりとわかゆくみちのしのすゝきわれしもかよはゝなひけしの原

妻

題しらす　同

万十 やちほこの神の御世よりともしつま人しりにけりつきてしおもへは

同 しきたへの枕まきしゝ妹とわれとぬる夜はなくて年そへにける

旋頭歌　同

はつせのやゆつきかたけにかくれつゝあつねさしてつまを（？）しる人

題しらす　よみ人しらす

我ゆゑにおもひたえなくわかれつゝ人のしるらむ

六帖　かくれつま　衣笠内大臣

同 よそめこそわすれせ衣のかくれつますれ契りし人を忍ひつゝ

同　光俊朝臣

かくる人のわかつましのひねのよろこひはてゝ思ひわひぬる

建長六百首歌合　前大納言為家

まきもくのあなしのやまのまき（？）ふかみさそはれぬるゝ袖のしつくを

六百番歌合　寄衣恋　正三位経家

恋つゝもやそのきる物ゆきもいそゝきてまつもそれかと

使

題しらす　人丸

万二 もみちはのちりゆくなへに玉つさのつかひをみれはあひし日おもほゆ

五十

同

大体坂上郎女

建保三年内大臣家

家長卿

春山霞たなびくをみてよめる

権僧正玄朝

同

家定

同

同

光俊

同

同

好忠

文應元年毎月百首

為家

千五百番歌合

慈鎮和尚

同

正三位知家

同

同

同

同

君と世のたきものとせのあなうらん　もとのつとひとすとて
類　中納言家持
みそのなくこのつとひとへいとこはいとおもしろきさま
家隆
ゆへいくこのよつとひこまにはいてんいかてをもてもも
商人
六百番六人寄商人恋　後京極摂政
ゆきさきの人のなかりけるかてはいかてをもへやいさ
同　慈円和尚
あきの人のなかむしとなりてはいかてをもへやいさ
同　宮家
同
多つの市や日とまつ市のそまにいかすしてあいきす
同　家隆
ミとすきとふとまとあはしてかさとはいとも人いとなり
同　京師
ふみ御ちらはもとちのもとちのもとちいのさかりとなん
世の判せるるいのさかりとなん
海人
家集春三月　好忠
ちくとうなくくちたちはちらはよひちりは藻塩やくん
永祿五年十月俊經卿家行会　紀周　法師
ちもちやくあはまきあはかすとへの松ちとうきけ

永久四年百首　源兼昌

ねさめしてきくそかなしきからころもうつのよそのさとひと人

同年十月二日宮宣旨家歌合　擣衣

よそに〳〵しく

春かすむ霧のころもにたちかへるこゑそかなしき

俊頼朝臣源師忠

一五十六　たゝきてしはらくもやすらはすあらいそのかきつ袖

本ニ　頼しく

同

六三　ありきするをとめらか袖をとりかねて衣かけほすかたも

同　かきくらしてたえまもなくすむ浦かたにいね苦も我はすき

同　追風にあせいさりしてゆくふねのかたよこにまよふなみ

同　しほのたちそふけふすまのしほやくけぶりとなるゝまに

同

一五七　しほたれてやくもしほ風をといふからのさひく

同　しほのあまのやさしき衣をうつとおもふもしのびて

千いつゝの　有家

しほたれてしほやくけぶりうち人はしほ浦風にかく

大神宮百首の　後鳥羽院

をはなのゝさかりに吹くしほ浦風にうつ袖やしほさく

同　いせをのあまのしほやくけふりのあふこそ袖

家集　伊勢

六三　いせの海にてつくしみしほかまいつかおもはむ

百首の　俊頼朝臣

ふしみのかゝみをのかへしおもひねの君か

久安百首　俊成

新和歌五 恋五

いとはせんいかさはたてとすやとしてもあるすまてる
百てしの恨恋　空家

新拾遺五

ひとはまのこゝろあさはかをたてをしれ
こゝろ　恋家

二百番歌合　空海

ワ　恋

ものあさはたてをすやとしてもあるすまてる
此の右方　有実

海人に宿やとりやすらん　判　俊成

殊庶来　海人

きてをすやとしてもあるすまてる
海人

とはすとしてもあるすまてる　愚老

恋

なまをすまてる　伊勢物語

家集

和泉式部

ものをもとはのあさはたてをすやとしてもあるすまてる

恋歌

御集

女は綾子女

二百番歌合　空海

ものをもとはのあさはたてをすやとしてもあるすまてる

家集　高砂

家隆

文應元年七社百首不逢恋

為家

新拾遺三

ものをもとはのあさはたてをすやとしてもあるすまてる

恋

あはは

行能

ものをもとはのあさはたてをすやとしてもあるすまてる

二百番歌合　空海

恋

いせの海のあまのまてかたいとまなみ恋のなきさにいてあさり[illegible]
衣笠内大臣

六帖題

新六三 家良
いせの海のはるかにすむあまの[illegible]かきつめてしほひにかゝる[illegible]かゝらん

同三 知家
[illegible]のあまのいつまてこの世にとまらんとや思ふ
知家

同三 為家
みをかりしあまやくいはなおもひにゆくへもなき[illegible]

光俊朝臣
同三
たれかまたまつしまのあまのそてなかきつなてに[illegible]

信實朝臣 従三位行(?)
同三
すまのあまの恋のいをとつりかへてしはしなきさの[illegible]宿れ

海辺宿次と云事を 為相
くれぬるやあまのみてらぬ[illegible]浦ちかくすむ舟とも[illegible]人

千五百番歌合 寂蓮法師
難波津のあしの[illegible]かりくらし[illegible]

夜
窓の中 道因法師
雲林
[illegible]

田子
千五百番歌合 秦(?)越前
恋[illegible]

近
題しらす 人丸
万十一
こゝにしてしほかぬあまの[illegible]

拾遺
六帖さや題 信實朝臣
[illegible]

世二朝ノ上ニ

新二五十四

かけてまくさかりやとてあり

寶治二年百首歌

同

うゆくとしくやすらはさるつまよりはしるもめ

西行上人

家集

ほさとさるしのくるやとねんもしさぬすさぬかさ

遊女

後京極摂政

新続古今

旨者詩人宇遊女

詠ものくるせてかつらはなりきさ毋の跡さて後年

同

家集

いにしへ見てくる思ひ出の跡ゆゑ

同

慈鎮和尚

おもひ人とやきてまくんつらも新はすさはなりへる

後

後京極摂政

前

後京極摂政小冊のこゆゑ月ゆゑ

同

前大納言家

家ノ

ほのかの人のまゆ

同

中宮摂政家房

家房ノ

それとまきうれ神とあ言ひ

同

家房ノ

わすれ月ゆゑひて思ひ

家集遊女

源仲正

ほのせ流れきとあるとあ

建長二年百首

信實卿

ものあ

ものあ

ものあ

世の判者

遊女

中流上

毎中流上

言ふ

行き舟のかぢやとまりてひとへにはれんとす
なほ旅ゆくこころやとく
素襖の年百て寄時雨
民詠て四家
うき舟のさゝめ無限の長うよ牧人言い外出るなり
遊女
踏しなす
うなかみのうらはやらをおそひとの男子ゆきんとのつさひこに
岳
ひとりかなしかりけるよさいまとのかたはとをきませるらの
ゝこゝふさきうらはてのさされの
贈大伴宿禰田主
石川女郎
おそひとやとやとやとやとやとやとやとやとやとやとやとやとやとやとやとやとを
報贈
大伴宿禰田主
おそひとやとやとやとやとやとやとやとやとやとやとやとやとやとやとやとを
久安百て
長宮大夫補
かくりてとゝまるこゝろ寄
偶偶
六百番歌合 寄偶偶 慈鎮和尚
人の住て花つ列へるやとのあるとをさして
前中納言定家
冬
一夜すがらの月はまるとの人の長りを
冬
うゝむへきさかりこゝろまれあつまれ
藤蓮

同

いゆく末の栄はかぎりなくてこそ

同　　後宮権掌

一条の宮の人々　　家房

同　　正三位季経

うらさびてすくなくあるく梅やこそ　　有家

同

東海やかぜはのこりなきうらん神さびて

春深くて百てを寄せ偶俱恵

大井川のこしかたやの行くすえ　　為家

貞應二年六月南殿百首同

知るべきかたのさしかぬ海の神の家ゆえや　同

百てをくらは　　京極殿

そこ山のこしかたしきまさるみ世のそこ　　義家

おりさし山の端ちかさゆつの新たなるのこ　同

あさしなきはなそこりはちすの月のこ　同

雜天

地

おちつる松をひろいて中きいはのつまと人やみるらん　　菅原道房

雨

ひとつのみはきこりつまいかりまい家やこそ　　後宮権掌

百番歌合寄雜天

後宮権掌

[illegible]

家業雜事の事　行二位家俊卿

山人のもとにまいりてくらせ
業毎の事ども行つとめさせ給へ　西行上人

家業雪の事

わらはさうしくてうかたくかきのうちにたくさん
器屋入道摂政家豆腐進ず

山人の方へ行かせ給ふ　行家卿

豆腐二百程豆腐
あのこちらの破のつぼをこり俺こそ最初祖ぬしん
建長八年豆腐　信實

方へ行はせのこしかさせ給ふ　宗家卿

内裏行幸山人

俊乃　玉葉

永仁元年忍百　宗家

方へ行ぬきうつむ山人

山尤

正治二年百　源師光

[illegible]

建保元年内裏行幸　知家卿

[illegible]

[illegible]

山つの弓
山つの右はかわきさぶらう
山つのたかあるみのさぶらう
健男　又男
頼朝
人丸
ますもとのうつしかい
ますもとのうつしかい
三百二十
長川のせんあゆつるまきけいこつる
長
六帖部
信實

人丸
三百二十
わすれぬ宮ばかりとかたるとかう
円裏は金剛中月
新後撰
さすらつくる神の新
円家
わたる桜ぬしいさい我ゝ
信實
賤人
頼朝
藤九
たつてまれすまあ
百二十
山ちさ神ちはたてたいた
後鳥羽院

家集　家隆

たつたやまもみぢのにしきおりかけてしかぞなくなるあきのよのつき

家集　同

ながめやる山のはかすみたちこめてはるかにのこる人の面影

紀家

六帖　あさぢふ

ますらをのたちはきにけりあさぢふのをのはらのはるのあけぼの

同　なまこ

家

たまくしげ

同

ふるのやしろのあさぢがすえのたまかしはもちてはらへたまへ

信實

千載

同

神代

ちはやぶるかみよもきかずたつたがはからくれなゐにみづくくるとは

家

川のせをさしてさすがにいかだのつなでかなしいわかれのつらさかな

洞院摂政家百首

俊頼

俊頼朝臣

従二位

後京極摂政家歌合

宮家

あけまきのあさぢがすえのしらつゆにあらそひかねてなくうぐひす

家集　女郎花

源仲正

二条太政大臣歌合

女郎花

あきかぜにたなびくくものたえまより

家集　女郎花

中納言

八帖　ほたる

ものおもへばさわぐこころをしづめかねくるしきものはほたるなりけり

同

定家

同

信實

西行上人

後頼

奴僕

有家

六百番歌合

藤原清輔朝臣

後鳥羽院御歌

源頼政

源三位頼政

源仲綱

唐人

神祇伯顕仲

立寄りて三月朔日ごろ
同
そなたやちへのもとにて　仲實卿
わかまつ
同
かゝへ
ふきたてゝ　後頼
同
ふきたてゝ
ふかすまいらせ
同
かゝへの
ゆゝしき神をせいくうてん
二條大宮大臣　肥後
長慶元年閏五月廿日　中將
きてみやいるやまかつ
かゝへの神ぞのの前にてや
玉葉九
建久二年閏十月廿日
宮内卿入道播磨
家雅卿天王寺御修法
如願法師
かゝへの
かゝへの
楊貴妃
文治三年　中將
みやきゝ
二條大宮大臣　赤貫
家集　楊貴妃
玉葉九
建久二年閏十月廿日
中將
桂中納言　長方
長慶天皇　摂津
世をいつ
太宰大貳高遠

九花帳裡夢魂驚　同

春風桃李花開日　同

秋露梧桐葉落時　同

西宮南苑多秋草　同

故枕故衾誰与共　同

李夫人

文治二年百首李夫人　定家

家集寄姫恋

雅有

家集　李夫人

長方

家集寄姫恋

王昭君

文治二年百首王昭君　定家

王昭君といふをも

王昭君　左衛

同　丹後

時しもあれ秋ぞうらなき都にて　こは（いつさの時雨
家集　王昭君　長方卿
かくうらせきかつて以川にて　なかめいる
永久四年百首　王昭君　源雅兵
みるまゝに秋すぎゆくかきつばた　ちのこゝろ行ゝ
同　二條院太皇宮　肥後
おもふ人のあはぬ夕はかきつばた　ぬまの月をぞうらむる
同　六條院大進
過すゝまくさむやとてのとゝかぬる　あるを
百首　王昭君　後鳥羽院大内
あしたゆふ秋ぞ　以前の秋のあはれ　ちの秋と点
家集　源有仲

あきつせのたゝ神のうらいはゝ　ちの
此のい王昭君の事かとも　既題とする
もゝていつゝをとゝ　とゝ
上陽人
家集　太宰大貳高遠
ちこゝとはつむまつ　ゝ
春秋未記年　同
青柳の　ゝ
唯向深宮望明月　同
ゝ　ゝ
宮萬百物愁肌肉　同
ゝ

二見ㇾ白氏文集四

家集上陽人を　長方卿

たか為やもりてきさらき明かれてさ春のむかしの(?)

同イ　二條太皇太后宮大貳

くれぬまてしもめ(?)もまてしりてしかは人のみそ思

文治二年百首上陽人　定家卿

ちるさりきさびしさの春のしらぬ数のつもりて

陵園妾

陵園妾　同イ

なきさけにみちひきの月しまさ独むかへ(?)

家集同題　長方卿

まれうきは秋のよひのつもりつゝ代にまさるゐもふかし

同六人詩合　同陵園妾　登蓮法師

△二百七
長十五
一

新勅撰雑一

漢故事題百首陵園妾

松乃戸をさしてかへりしありあけのつきぬうき身のはて(?)

光行

乙之みこ三山乃ふもとの松の戸にふるものはたゝ山ものゝ川(?)

史本和歌抄巻第廿六

雜部十八

題

賀　大嘗會　元俊　行幸

年事　旅　特輝　眺望

哀傷　夢　憲　古

言語　述懷

賀

正治二年百首歌　藤三乃みこ惟

ちとせまで山いとさかりにて谷川乃水の千世まちとなる

千五百番歌合　大藏卿有家

ちとせまでとこしなへにもちとせ山の松

世の判者　季経卿　黄河千年に一すなる聖人出る

山の中の仙人　乃代乃ちとせ

建久五年後京極摂政家歌合春山

年ゝの山路ゝ分ゝ

千五百番歌合　藤中納言家隆

ゆ方の海ゝ底のかすみて

沖の白波家隆

新古今撰ニ入ケリ　四月八日　聖武天皇　伊勢の国に行幸ましける時　ゆきとゞまりて　ゆきのはて　伊勢の国に行幸ましける　長屋王

同

打つの浦のうつるまでよりの波の白玉の数

同

このうちやいたしてはとよりけの数不君をそなたの

同

続古今

をしなべて花の山吹の色深き心の中の紅の

同

宮内卿

宮内卿

宮内卿

[illegible]
百[illegible]
後宮[illegible]
[illegible]
同
[illegible]
常盤井[illegible]
[illegible]
西[illegible]
家集百[illegible]
[illegible]
[illegible]

ゆきかわとのなるとさーまつ大ゆ（イ古）君いまは世
同　さこやないてりの元乃ゆ重井ゆ世ゆ
天暦ゆ一ゆ世行ひく世百月夜ゆ行ゆ

日とゆ一ゆこゆひゆ好ゆいゆ百ゆ月ゆ

源俊頼朝臣

いゆひゆてゆいゆ世のゆゆ世ゆ月ゆ

横改家屏風大井大井有ゆ和

藤原為忠

祭主神祝

ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

和泉式部

みゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

永久元年百首賀

俊頼朝臣

ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

同百首

同

元永元年内大臣家歌合

源雅光

同

ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

花山院内大臣家歌合

源俊忠

元永元年十月十日内大臣家歌合

源俊忠

ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

同

禁子内親王家中勢

元亨年間[illegible]

保延元年家長[illegible]行の祝

後原通憲

文亀二年七月白河殿七百[illegible]隠出山

権大納言長雅

建長二年[illegible]

一位宣教

元亨の[illegible]

同

新大納言[illegible]

みちのくにやうとせんやうとはいかん

判者之縁[illegible]

政誠是不習頑[illegible]誰不[illegible]服[illegible]

内侍[illegible]

天[illegible]

正治二年百[illegible]

式子内親王

[illegible]

寛元元年[illegible]

民部卿内家

[illegible]

家[illegible]

[illegible]

中納言[illegible]

俊頼卿

[illegible]

家集或歌會祝　源仲正

[illegible]

雨歌百首　仲二位行家

[illegible]

六帖類　[illegible]

[illegible]

家集祝　民部卿為家

[illegible]

百首の　仲實卿

[illegible]

大壽會　[illegible]

宮家の家集　[illegible]

[illegible]

[illegible]

世のい建暦二年四月[illegible]

[illegible]

元服　[illegible]

[illegible]

同　仲實卿

[illegible]

同　俊頼卿

[illegible]

同

源惠

同

六條内大臣

行幸

文應二年毎日一度放生会

武家御方

光明峯寺道揮改

文永元年毎日一度惣社

同

文永元年毎日一度惣社

同

同

文應元年毎日一度惣社

同

行二位家隆

百度の内

六條殿

前中納言為家卿

同

建長二年

文修

康元二年毎日一度中八月十五日の

放生会毎日一度惣社

同

同

同

同

同

同

あつまりてあそびてうたひてうまれくのこゝろをなぐさめき

相撲

慈俱和尚

建保三年五月十日

わけいるむさしのくさのあはれまことにかなしかりけり

きのかたにあれのこゝろをなぐさめて

こゝろのまゝにあれのこゝろをなぐさめて

ものいはぬこ

内ヶ宿 安芸の
とるを山と高のくらをぬきまして出雲まへ
左中弁ちかつ人の馬をぬむきにせんとせる
貫く
むかしより高名の弟と聞くくわつのとまをとりてうちの
ひたちの国へくらる人と
紙宣郎
朝ちよつけて物をたかせ中ほどを高の神と新や弟
左後郎
白帖頭
朝六ヶ
わく山のくらりるくを岩つくひ高の弟ちまを
月光ちん
古来の
くくりたりてつはんをかをきをあ山家のくを
河内横路百を指
後九條内大臣
かつりををきをはをくくよをを。きをはをきをを山

和泉の国行人月前指
芋ほをとををのくくりはをくくをれをの神ををくを
正三位知家
賀茂二百を指
さくをの神くをあをはをくをあをの神ををくを
信實郎
建長二百を行人
をををくをくをくをくをくを指る
人安百を
前大納言隆季
指長つをををくしをくをくをの神をくをの
長多仮人道二百を家五十を
前中納言定家
おををの方をくををくををくををくを
建久人七百百六を指
内

[illegible]

建長元年十月十日

[illegible]

[illegible]

元徳元年

[illegible]

建保三年秋十五日

[illegible]

大納言通具

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

同

[illegible]

正三位藤原家[illegible]

民部卿藤原[illegible]

同

[illegible]

家集[illegible]

民部卿為家[illegible]

いそのやま[illegible]

正嘉三年[illegible]

同

[illegible]

貞應三年[illegible]

[illegible]

素元三年百首歌

[illegible]

同

[illegible]

平宗宣[illegible]

[illegible]

永仁三年家行[illegible]

同

[illegible]

君[illegible]

五旅

[illegible]

家集文永元年[illegible]

[illegible]

千五百番[illegible]

五旅

[illegible]

同

[illegible]

[illegible]

[illegible]

明神とあがめ崇敬せし所の神なりと云
建保三乙亥年百
中納言宗家卿
もろかづら世のすがたはきえぬべし
千五百番歌合
春はあけぬ
しら地ふるさと山の桜
石清水三十首合歌
旅宿風
慈俱和尚
野べ
同
もろもろの枯草枯草とかつ枯れつつ
後人我為改本
同
山路はくれかかりぬとかつ
実后宮九人歌
同
春とてこの夕ひとりなれば
同
岩もとの石室にかくれぬるかの神
鳴長明
百首
中納言宗家卿
同
月ちかくいの宿にすまつる神なれば
後九條内大臣
弘長元年百
月ちかきさとりも桜人
芳野の母よりもなを
同
ちりぬるかの山のはるかの
同
春禊二月十首
行人罷旅
毎月ちかきつきの世の中
遠山うつる松のうす雲
同
同
隆祐卿
千年ふるいまの世にいきつつ
ちとせをつるくらべく
後宮松梅改家持
行人罷中
桃堂

行二位家隆

七百七十三番

権僧正頼

家集拾遺雑

参議為相

題長五〇毎二一首

民部卿為家

百番

慈円和尚

俊頼朝臣

同

仲實朝臣

大僧正行尊

[illegible]

[illegible]

菊原景徳

[illegible]

平林花行の旅泊千島

平信正卿

[illegible]

[illegible]

俊金右大臣

[illegible]

[illegible]

家集

[illegible]

西行法師

[illegible]

正三位知家

[illegible]

[illegible]

信實卿

[illegible]

[illegible]

民部卿為家

千里

[illegible]

[illegible]

[illegible]

大宰大貳高遠

[illegible]

[illegible]

[illegible]

たのつるひるの別るれば世をいとふ都のてりもあはうきまし

同　清輔朝臣

橘つくるもろかきつのもろかきの都の山ぢ

同　實清朝臣

あさぢはらしの人をとはなかしるあるのうまはなれ

家集橘三の中　源仲正

いとせんとたちよりしるあるやうとりする人の家を

内集　藤原右大臣

山里の花の橘のうくひすをいとはせんにはるかくり

世の前日宇治にて人々とりてかくりて

かくり行ふる雪のはるかさとうと

三月晦日三の中　橘則光　慈俱和尚

あつまぢや橘のうてこそ乱れ山吹ぬるとまるせく

六帖　前六十二

乃の乃の乃の

[illegible]山の岩根にかけて[illegible]やまの谷川乃は

後京極摂政家肩書今羇中聊爾

[illegible]の[illegible]

[illegible]

同

[illegible]の岩の根よりあふれまさりて[illegible]

隆信朝臣

[illegible]

後京極摂政

家集内裏百首新山

[illegible]

[illegible]

二所詠下句[illegible]

[illegible]

[illegible]

同イ
こかりすけたかすわのこそかりけちのをそこそこそひさ
見めうこそいそひとかき

日本記竟宴　源清猿

よきをとそうたかすけて山のこかりと
同イ　有穂

こかりすけたかくめかそこひとめすつてせそ
建長七年那須家千代狩　光俊卿

秋はのゝ(の、)こそふみたてまへとこそ人へ
家集居待月　道俊　源仲正

やまさつを祈おもきやもけりん月のてらすす
野徒歩望　右京大夫清人

一家
すすたあさもしかをけせいをみそうをすせこない
世屋入道摂政家百首　狩猟

こかり人をすのをの山かせにはせくくはるれたきを
氏永　高節　所木

六帖ものや　橘俊正卿

かり人のゆををりてをかさてををのこそや
家集　狩　信實卿

道はきをすのこかりをやさけもををの
正三位知家

かり

せこをのをひきこめをををこそ
永久四年百首　神祇　源仲正

最をつはきの家をををを

同

長谷部左衛門尉

同

仲資卿

同

源忠宗

同

長刀の世こゝ以野そ〻ん藤ゑ門ゝ神ゑやゝ

長谷部忠房

同

肥後

友かりの左衛門をもてかりゝ

長承三年常陸五郎行尤藤原

長谷部道信

長谷部左衛門

民部丞紀

西治二年百

三山の河ゝ藤ゑ神ゑ友かりの

後九條内大臣

建長八年百

三山ゝ藤ゑ

五郎行尤

光明寺入道横改

文永三年七月日

後堀河院御宸筆

弱ゝ人の世ゝ長ゝ

寶治二年百

ちゝゝ世ゝ長ゝ

題

いゝ世ゝかりゝ藤ゑ

新六二首 詠

明やすらかにやすらかに遠くせこそ春のいくこころ

同

正三位知家

同

なれてこそ山とたかせこそ春もすくなき

民部卿為家

同

たてやくたくたくつくしの山まつりかりくもるかや

信實朝臣

久安百首 山の

崇徳院御製

なきけきかりこの耳よさえのこゑをつくきを

百首 六辰家

信二位家隆

まるきたくこやきたくたかの春とわさまきかりくへそき

眺望

千五百番歌合

前大納言忠良

長歌樹

やすらかにたくたくの絵をつる月の

俊頼朝臣

浦ゆさ家へ引ひきたる春のそよ中ゆる乃

民部卿為忠

正治二百首

心なくこひもしらかすむ春の花をそよ

藤原定家朝臣

建久六年通二百首歌合 家五十 眺望

大蔵卿有家

やすらかにすの里をこそ世にしるの花をそ春のくり

俊成女

名さしたるよかすむ遠山の杉乃緑ゆよ春つり丹

同院播磨家百首 眺望

大納言経通

わすの心らこゆるゆるなるたすやきすきゆ

同

うるはしや浪のうへなる山さけの一葉うかぶのつり舟

俊成卿

同

むさしのゝ草葉をしなべ時雨ふる月の雲のゆくへ

左俊卿

同

夕雲のうすきをうつす水の面に雲をうつして山をみるかな

文應二年毎月一首歌 民部卿為家

さゝ波や浦ちかをとゝ波のうせ行かたのもとをしらぬ

前摂政

わすれぬとなくなく入海ゆく舟つゝ波さへうらなれてうら

家集眺望

ゆくせいとゝ波のうらの夕雲きえて行方つゝ海山

左兵衛督通博改

隆祐卿

寶治二年百首 海眺望

信實卿

わたつうみのいるかの海をゆくふねもあまとをみる行方

新撰名所和歌 厚田社

第安二年廣田社三首 行合眺望

皇太后宮大夫俊成

和田の原こゝをさすらへいくかの海ふかくくもえこゝをかけるふね

同

こきつゝ三ゝをかきうつすみなせいとの家かつらの日陰

同

威方卿

うるはしやなみをきてよせくる/へくるかの

世の利生 後鳥羽

張騫の漢土昇 蜀郡靈槎

横須賀

いそのきりと五ツ山にて分る

結用は所

入るさ海浜とみまいしに雲みわり浦へてり紅

河内摂津家にて歌堂

家長卿

つゆのなかるるかたにて海のうへにてかすみ

建久七年四月廿八日(西元一一九六)の

前中納言定家卿

かりみるこしいかなるさとのあかつきの

花乃わかき

哀傷

延喜御子(八十)の中務卿

天暦御製

もろこしの方のもしらぬ

きさい後ろ

はるの

すえはるかにくもるくさのいろ

世間の事をなげくこころの1

百十六

いきてよの中にあるかぎりは

ひとりぬるかたやなるらん

かくしひとりのかたやなるらん

結宣卿

風雜下

わくらはすかりしてすまし

花中納言(成忠)

後ろ

の暮ぬ

(春の月)

月夫辰宮大織冠

五雜四

ゆくさきにいかなるものくらべり

(のくらべ)

道を乃家

家集無常ニ

民部卿の家

そらるさのてるやうにもなる

山のくまにもてはやされ

寿元年尚注百

白寶珊

家集

西行上人

玉葉四

なるものすみなれぬる故

はるのそらあひりて

ものの人くるみなりてあるよ

円

獄の絵をみて

あるよりくるうきなれみるくるるれてくるるおぼえん

円

うるべきはれのすまひをきるかりそめ世をはらすさる

登蓮法師

家集を常方中

なるの忘れを書まるおもふ

円

無住法師

市中消息家

意中なる花のすまるをかけ法師

世の建永元年三月後宮和歌おなじ世

ゆめの世界 円

なるるあるら家隆つらひら

建永二年三月百首

慈円和尚

玉葉四

おなじすまひ

円

人の世をうつるあるの遊ぶこのひとつ家

円

民部卿為家

家集を常方中

うつりゆく時のつとの言葉

円

問まるかるもやるくまもあるまあれ

円

弘安二年絹根百首

安嘉門院四条

なるるいさのみさはひのまへあるむ

円

雜三中

[illegible]

[illegible]

七百[illegible]

權僧正[illegible]

たゝかひてちりくるしてかをとゝめ[illegible]

柿本[illegible]百[illegible]

[illegible]

源氏物語[illegible]

[illegible]

西行上人

[illegible]

久安百[illegible]

前大納言俊[illegible]

[illegible]

西行上人

家集山[illegible]

山川のみなそこにすみけれ[illegible]

家集[illegible]

和泉式部

[illegible]

みちのくにてよめる

重[illegible]

[illegible]

浴室短夢

千里

[illegible]

夢

家集恋の中

貫之

ちくさいおもふつゆをたのみつゝ我を忘るゝ人をなげかん

ひさかたの遠きゆゑんと我を忘るゝ人をなげかん

忘れぬる人をなげかんとこゝろみに

玉葉集

同

むさし野は恋しき人をたのみにて

同

東

おきつ浦のまつをなつかしみ

家集

正治二年百首

いそなれぬくまもなくなるかなしさ

建仁二年百首

貞應二年百首

山家松

民部卿家

建仁二年百首

さゝぬまでこゝろ

正治二年百首

山ちかき松の枝にたまりてくるゝ夏の月をみる

建仁二年百首

家集

慈円大僧正

慈俱和尚

文治六年五社百首

夏

見大原宮大夫俊成

夏をまちとけのこゝろ

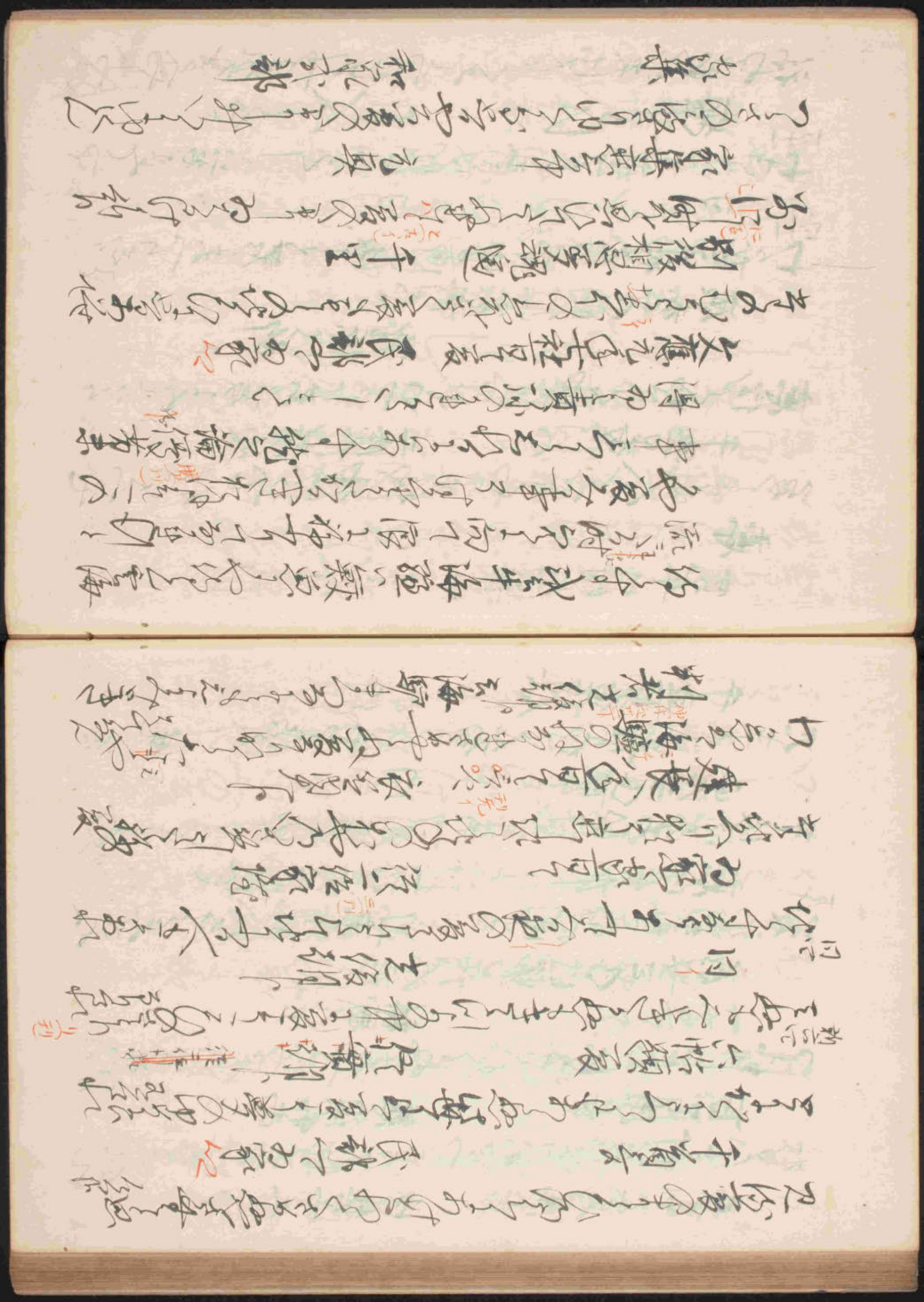
正治二年百首

常盤井入道太政大臣

ゆゑ

ゆゑ

文治二年百二十度
[illegible]
[illegible]
[illegible]



[illegible]

[illegible]

[illegible]

柿本朝臣

海をせき山をうちこしわたるとの意なるべしとあるさとん

家集恋三の

長歌恋の部に入れるこゝにあるべし

ほとゝぎすなくさつきのあやめぐさ

文治三年百首恋

市中納言定家

わたるとよりてそこにいとひとあるを

家集

たまのおもはぬ人のなかにてまつ

後頼朝

ぬるこひしれわがせこよりは（こゝまでは

はるのあさ

隣月恋

内

なきてこそつきをあはめやさいはつのかたそらに

祇園社百首

月恋

うらみのこむしたるこゝろ

家集

慈鎮和尚

ゆくとしにせやあるかたしかれよりかくてこゝろ

五十首の被撰詠中

後京極摂政

内

次郎

月恋

宮内卿

家集

内

後九條内大臣

ながめあかしてあるとの意なるべしとあるさとん

月恋

家集恋三の

長歌恋の部に入れるこゝにあるべし

ほとゝぎすなくさつきのあやめぐさ

文治三年百首恋

市中納言定家

わたるとよりてそこにいとひとあるを

家集

たまのおもはぬ人のなかにてまつ

後頼朝

ぬるこひしれわがせこよりは（こゝまでは

はるのあさ

隣月恋

内

異本
家集
つれなくとうそうしてそうしたる人
なくなりたるあるあくる
家集恋之中
前中納言匡房
いつまでかいかにもいまはやもしるとあきの
月
同
思ひかねまつ時のやうあるあくる
前中納言定家
あくるまもなくなりぬるあくる
三位知家
あくるまもなくなりぬるあくる
百首之内不逢恋
前中納言匡房
あくるまもなくなりぬるあくる
恋
前中納言匡房
恋
人もなくなりたる
立百番歌合恋
藤原清輔朝臣
この世にまたなきものの
同
前大納言定家
いつしかけさやうやうあくるあくる

世のなかにあるかたひとつにあらでなにかはあるべきあるべき
はかなくなりぬるあくる
恋
百首歌
前大僧正慈円
千五百番歌合
後鳥羽院宮内卿
同
前大納言定家
人もなくなりたるあくる
立百番歌合恋
藤原清輔朝臣
この世にまたなきものの
同
前大納言定家
いつしかけさやうやうあくるあくる

八月十六夜

後京極摂政

[illegible]

六帖

[illegible]

正治二年百首

[illegible]

二條院讃岐

六百番歌合

大蔵卿有家

建保五年内裏歌合

[illegible]

新続古今三

[illegible]

正三位知家

家集

[illegible]

[illegible]

[illegible]

正三位家

[illegible]

六帖

[illegible]

建仁三年十五首歌合

秋十

[illegible]

[illegible]

[illegible]

高天原
あやはたのうみのきよみのさと作
六百番詩人宴百首　永徳元年
ちさとの花さかりなりとはいへど晴の夜
賀茂
かりこもるゆめぢをかよふくもとまで
建仁元年九月十五日
朝夕五十首　六帖題
しるせばこそ思ひ出でぬ
秋夜月
月かげもしるしなりけりやまひこの
出でぬかりこそあるべけれ
わりなしと月つもるこそ

西行上人

遠さかる
三百番詩合宴後
ねやもれぬこのしたしるしあれ
月
人をまちつるやどのあきかぜ
後徳大寺左大臣家十五番歌合
あさぢのをかの原の家の
稲荷社詩合宴後鳥羽

建久元年上巻

和泉式部

月
つれなくてこの年ふるまつ
遠さかる
三百番詩合宴後
ねやもれぬこのしたしるしあれ
月
人をまちつるやどのあきかぜ
後徳大寺左大臣家十五番歌合
あさぢのをかの原の家の
稲荷社詩合宴後鳥羽

建礼門院右京大夫

源氏物語のこころをよめる

登蓮法師

千五百番歌合

同

藤原長房朝臣

大納言経通

民部卿家

同

六百番歌合

慈円和尚

新古今歌

民部卿家

藤原長房朝臣

永仁二年九月廿日

宗秋内大臣

乾元二年行尽

中納言為忠

三位殿

同院摂政家百首歌

春の海松の山もなぬしにはりもつるみより

建長五年二月家百首

辛字文

あひにあひにしつまりくるるきけつるなるまつ

よるの人人

題しらず

同

春

ゆくすえをむのそなやへむすんかねる

同

ゆくすえをのきをいひわるあん

同

ゆくすえをのやきまをすをいはねそする同

穂積王

家のあるじ有之

櫓不漏判

中納言家持

同

春

たちてのさいとしらいとてまりくこまをもまつるあきの人人

同

春

ゆきをみてしらはやまりつちをいる

占

題不知

横

春

あをくもはしをはをとをあをくわをえをまをてをあをき

春

ゆををを

長谷の

百さた　いつきまさんとむかしこのみてら人々をゆめさめのわすれつきせぬ

同

題しらず

日吉　うつせみをやうれしきまさうてきみあひたんてとしきさ

若後

三条殿　因信て家行卿

ゆめまぼろす　姉小路　ゆめのてをひゆめ人の世

大炊御門右大

久安百首

むかしのゆめをとんこのくるわよ郭をきくやきらはや

千五百番歌合

第六　雑

ちりそめしさくらはなをこそひてはこしかたをこそ

建長八年百首歌合

後二位入道家

ゆめはかりうつるとてあかれぬひとりはさ

言語

建長八年百首歌合

雑

ちりはてしさくらはなをこそひてはこしかたをこそ

尾張内侍

人をこそ知てむかしの忘れぬるあはれ

建長八年百首歌合

恋

思のこしてはかなきこのよのなかをこそ

家集

伊勢

ゆめとはつれなくもあるかなとてしうちやとさとせんとこそ

題しらず

清慎公

ゆめはかりうつるとてあかれぬひとりはさ

西宮前太政

家集

和泉式部

せこそきてもとりこそなきぬ秋の夜はこゑ人をまつ宿のあけぬる

あつきをもいとはぬ秋のひらのやまかぜにすずしき月のかげ

かくてらすあつきをのがれぬるかなとのまをいとはぬ

蓮のつゆかな

[illegible]

加茂の[illegible]

[illegible]

題しらず

相模

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

文治五年百姓萩

[illegible]

六百貫許

[illegible]

同[illegible]

同[illegible]

後京極摂政家[illegible]

[illegible]

二百

[illegible]

韵字の雙遊霜[illegible]秋憂[illegible]

[illegible]

無[illegible]

[illegible]

鳴[illegible]暗養[illegible]

[illegible]

貞應二年九月[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

建長三年毎[illegible]

[illegible]

寛元三年結縁経百首　同

[illegible]

隠居百首

[illegible]

海辺宿次百首　馬渕

[illegible]

[illegible]

[illegible]

家集秋二首

たなびくはすゑのまつ原ほのぼのと秋はあけぬるあきの山ぢに　内

紅葉せぬときわの山ぢ秋ふかみ　内

百首二首

一とせのひさしかるべきの春ごとに山人の梅　内

おなじきの下葉のつゆ分しらぬ人のはつ花　内

家集恋二首　元輔

ちとせまでいはつをやくるあさぢはらきてみぬ人　内

右本に家賀の屏風十月雪　内

ほのぼのとつゆのみえゆるかりの跡　内

たなびきこのもとこそ分をしらぬ人　内

もしまをいとくもりひろのうちのさとをしらぬ　内

殿上にて時雨十首の　俊頼朝臣

部立わかぬ山きの杜はきて　内

部立夢眠

まくまをしかのこゑきたるあと人ぞ　内

あるこゑの分ぬ山人　内

きりぎりすなくなる山人　内

祝部いた　内

みつるとは山の中にいりたちてあるとも

あらはてこそ風のふくに吹きれたきこゑと

ものをこそ

ひさこそはけるそこにはよるとも

悔部

内

いはうちの　さくらの花の　ちるきわまいの　そらにうたて
　　反歌　　　

[illegible]

世のうい隆源は仰のとこそひくまうるれもいみ
いとしあるそれをはしるかきつ考るこの

隆源は仰

[illegible]

肥後ゝこのをよりて如かるる古のたわゆゝとるひら

俊頼卿ト

くしかあつたのをみるせるさよりもこの十ゝ[illegible]

[illegible]

源雅房

いとらいへ乃ゝ[illegible]

[illegible]

法論ゝ詩人[illegible]

仕服全真

同[illegible]

同[illegible]

同[illegible]

[illegible]

賀茂重保

同

[illegible]

信実は仰

時ゝ人[illegible]

[illegible]

源仲正

[illegible]

家集宗井意

[illegible]

同

[illegible]

同

祇園社百首初恋　　[illegible]

六百番歌合　　慈鎮和尚

千五百番歌合　　同

恋　　同

文集百首　遍照

賀茂社百首　　同

谷ふけて岩根さしかくれる山ちの水の音

日吉社百首　　同

建永二年春比

東林院入道

むし人のみきりてとりはなす雲のまゝ

述懐百首の歌

実房公宮内卿

あはれさてしなの山ぢのあけぬるに

すてゝかりしぬきぬ

建長三年十五首 行念春恋

後鳥羽院宮内卿

はてしなくさむやとしるしきの

後九條内大臣

おもひそめしかたみにとてはつ

月

弘安元年百首

世の中のあはれをしるとはなけれ

五十首 後鳥羽院御製

かさとの月映風

百首歌

ふるさとの月

ふるさとの月

御集寄月恋

君を我とくらすはつかの

和歌所初度新撰初恋

月

家撰評人新撰 行(五)

まつ恋や浦風さむきさゝの葉

後法性寺入道関白家百首

月

ながらへてこのよをかぎりなる

百首

夜無明名のうはの月をとて

東蓮法師

月

百ゝ法師の　　無量院入道二品のみこ

ゝ　　[illegible]

保安二年九月内大臣家行人野内

明賢卿ト

[illegible]　　仲實卿ト

永久四年　　[illegible]

[illegible]

永安百首

季通卿ト

内

[illegible]

[illegible]

[illegible]

家中にて祝

[illegible]

文安三年二月鶴岡宮家にて行ふ

西住法師

大井田の[illegible]

建長八年二月行ふ

前大納言

君無[illegible]

[illegible]

[illegible]

前六位

六帖歌

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

信實卿

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

涙乃ゆ(つ)ゆ(ゆ)あ(あ)く(く)さ(さ)せ(せ)て(て)く(く)れ(れ)ま(ま)す(す)か(か)

御集花恨

鶴谷右大臣

いろきゆるものとあるは桜花さくかりねてあれ

家集花ちり

西行法人

花ゆゑいとはしとはいはるるものなれはうらかなしき

吉野山花の盛りて雪こしのしたんん

もろもろ我とはなりて世の桜花ちりぬるあ

あるはなさくはかりあるあすはをきかぬ分

かくしつつ雪とくるにものこるらん

夏歌

うたはくはのこらさるをあさはあるやうつ

こしくはるさとのあるはてをみさはあ五月雨乃し

家集花ちり過て

とこ時しかなるみよ校ひてあ神のあるる

月三月

くやくさ月のあるやとあるもたてたる

ゆとりの月のあるまくくれて新のあるかりて二三

逆三月

あるくくよ(ゆき)るくの(かる)ゆ(ゆ)ゆ(ゆ)ゆ(ゆ)ゆ(ゆ)ゆ(ゆ)

秋月の夜ゆくよ(の)ゆ(ゆ)あるあるて神

家集

せくここくけるあるあるとこるゆ

夏三月

あやかりくくんるるるるるるるるるるるる

ゆるるるるるるるるるるるるるるるるる

ゆるるるるるるるるるるるるるるるるる

ゆるるるるるるるるるるるるるるるるる

ゆるるるるるるるるるるるるるるるるる

ゆるるるるるるるるるるるるるるるるる

ゆるるるるるるるるるるるるるるるるる

ゆるるるるるるるるるるるるるるるるる

ゆるるるるるるるるるるるるるるるるる

ゆるるるるるるるるるるるるるるるるる

ゆるるるるるるるるるるるるるるるるる

ゆるるるるるるるるるるるるるるるるる

ゆるるるるるるるるるるるるるるるるる

ゆるるるるるるるるるるるるるるるるる

ゆるるるるるるるるるるるるるるるるる

ゆるるるるるるるるるるるるるるるるる

ゆるるるるるるるるるるるるるるるるる

ゆるるるるるるるるるるるるるるるるる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

こゝろ長い志にかさねて俺ともめつゝ云ん人をもて引ん

恋百首

我のゝうわかいてゝ行せをあるまじ人のきゝつゝ

ゆくすゑつゝ神ゝゝつゝ恋百首のきゝて行つる

世間なりさせ行ゝ世のかの乃乃乃乃乃乃

君すゝ恋ゝゝゝ

柰髪俄頂寒春花　円

夢中歌又繰返

夜にてさまてしてのてはなれぬ

むし眠早寛常殘夜　円

わすれぬやいとや法師の

自粉に其変寿命　円

さいきるくはひとりとてつるとの

心変老おの　円

世をとまひわもひるはいとまつ

百てはの委形老サ

わすれくはなるとはいとの

慈鎮和尚

百てはの迷惑　円

まさるはのもひとはいとかるとの

寛應二年十月住吉社行合迷惑

清浦羽上

わるさやもつるへはきれ

迷惑の中

権律師永紀

わるけくわるとはいとを

慶政上人

わすれとひまさくて

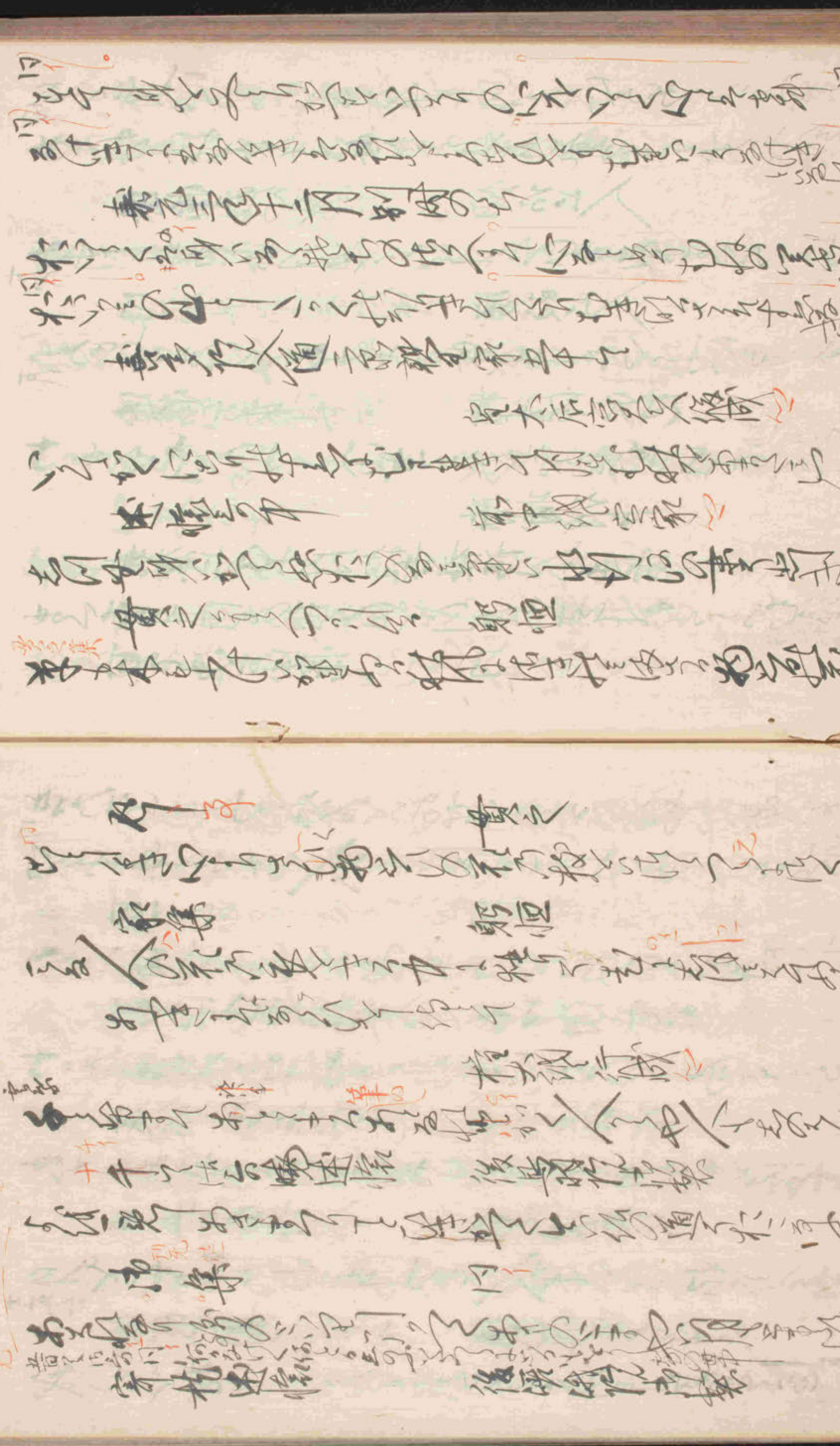
迷惑乃中　円

地蔵上人

わすれはてまとの

世をうとすくの

円



我はなを松ゝ
白氏文集をこゝにて
古本の
ゆゑとい
千五百番詩人
敷なるわ我ゝ
建保三年百
やの浦の
彩元年栗田社の人
和歌の浦やさゝなみ
百首
つゝみもあまたあり
若乃たてゝ
白氏文集
白八首

家集述懐の中
氏詠の家
好ゝ
跡を
建長三年毎月
おもひ
文應元年七社百首
人ゝ
寛元三年式部の
賀茂社百首
まちとりの

後光明寺殿摂政
千首
新大納言
建保二年
月かな
月
新中納言
百首
若乃
白八首
月
月
月

人々とて我れをみることあさく

三百六十てはの　後九條内大臣

神のなき仏のなきにのみるかな　内

柿本朝臣百

舞ふるけさとかけとそ物ものせ　内

出つくや（のさしきひくこと

前云ふ　俊頼

ひかくしもしらぬ風かな　内

ちりきり仏とうるおたきも　内

明くれは　内

永仁四年下

うるうのもとにおもをとる

民部卿為家

かくまこるこつさ花のえとと　内

文永二年毎歌

百首　内

ひきかけ　内

恨ひ恋連歌百首

後頼朝臣

なんとくしてもいとしてもいとしてもつるはりを

内

山ふのつくるおもかる我るおもかるおやんせそれとまくとまは

内

長歌

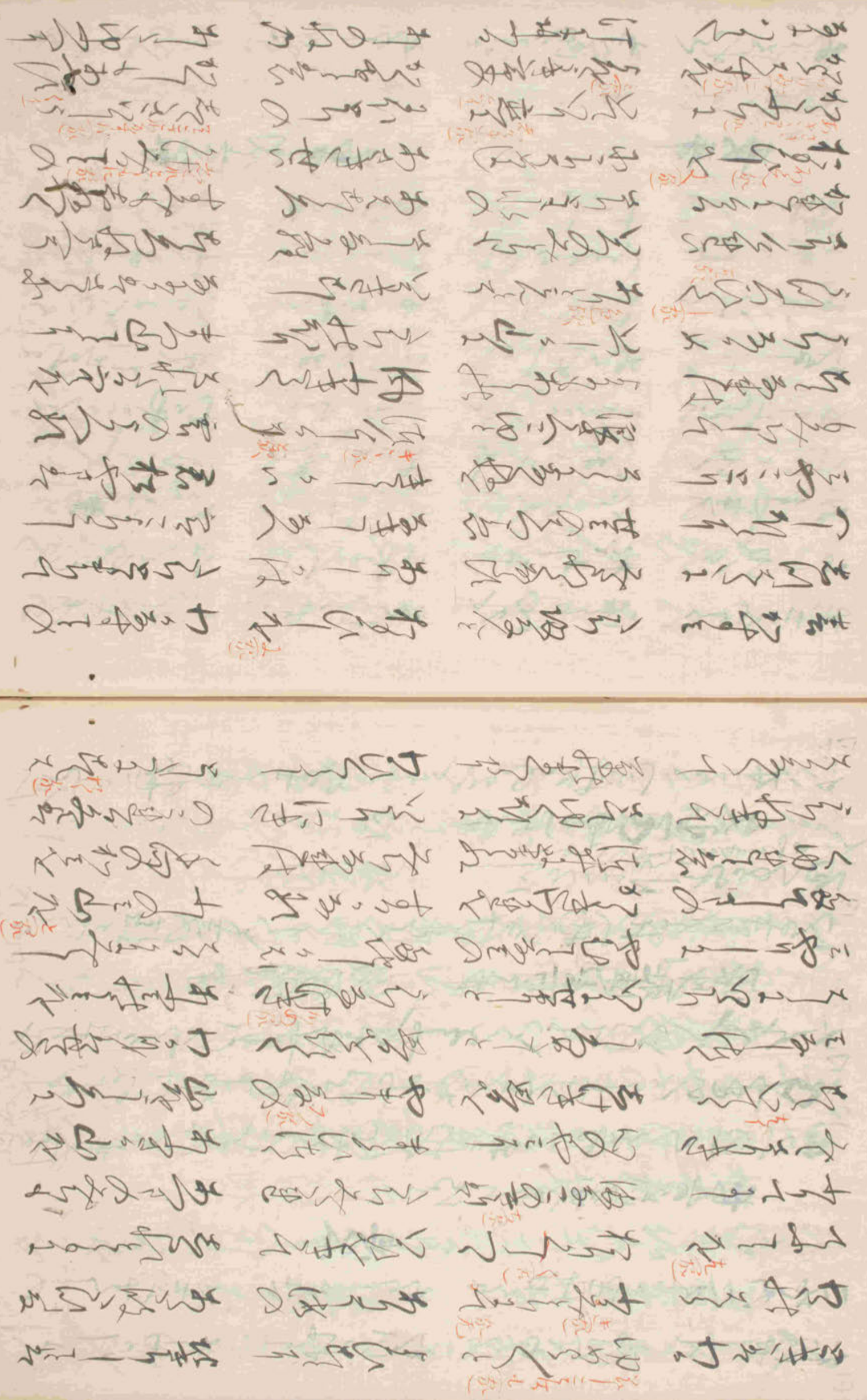
こたへつこそ　ときはゆる　内

たはせて　ちるとおもふ

悲秋

ありしとき　ときはのの

かひはれり　ちりしくに



あるとぬく　きこゆるを
[illegible]

長年

はるゝふる　わかせの山の
ゆりのはを　つゝみもあへず
きこえつる　はるのをしかの
かるゝ　[illegible]
あるはなの　[illegible]
ゆきの　[illegible]
ちりゆく　[illegible]
すきるる

[illegible]

[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

山さとの
年をこす
をしの山
むすびそめ
ゆきは
月をまち
ゆきてを
ちかてり
ねしを
やのおとも
みをきをく

雲のうへ
月のやどり
ゆきをまち
はのもとに
ねのうちは
れ山のを
もをくまな
しかやを
見るにはし
つをきをし
はるの二月
ゆつをひと
かきはをく
ををしまを
をををの

いろく〳〵 はなをみるに
ちりをくを

反三の
花をいとはしくちるこのもとをしたてさそふ
やまかぜ

四月廿五日後鳥羽院御幸殿に被召
長家卿奉仕れ給ひけるに
慈鎮和尚の
侍りけるを
かきつけて
たてまつりけるとて

全巻一萬六千三十二首
長哥百四十九首
唱和哥一首
旋頭哥二十首
文二篇
催馬樂一首

寛永十七十月廿日
いせ本ヲ写ス

以巻上恋部に登三年藤原長清朝臣家集に参議雅相卿の和歌とあり

古今跋文九

跋

作者部類
長清 右近衛少将 藤原 正五位下 長清卿

以夫木和歌抄は藤原長清自撰也 昔中比三河守にて
家集并代〻勅撰に漏れし和歌を捨集所也 自今以後〻後撰拾遺
又は道〻志あるも人の為に古今の歌を不顧集置者也 又夫木抄
と名付事 今案に非ず 出鈔〻名を異字にてかゝれ
みて有ける夢の中に白髪なる老翁一人来り曰 此所撰〻和
歌 高砂有我和〻歌 宝殿代〻末代〻迄永成べし 倭国〻風
俗なるべし 扶桑集と可名付と謂れけるを 夢忘地に見ち
誰人哉と問れければ 我は是和歌の道に心を寄
江中納言匡房〻卿也 夢覚めて泉黄門為相
〻に被申ければ 為相出家事 布代不思議〻霊夢末代〻
希特諸家名〻 秘勅〻但扶桑集は日本国総名やうの

古今九

其時扶〻字〻つくり桑〻字〻木を取合て夫木和歌抄名付
夫木和歌抄いとさきに藤原長清えられおきてより名き鳴の白〻
心をたのみふ人もてあそぶなりにこそ名はあれど流の末〻は
見〻て鳥のあゆみもとおいく〻しく おもほえねばつれなみ
るもよすがなく更にたゝるの家集をかゝなへたはなりけ〻侍
るものなく〻 猶見んごろにはさこそあるむもよいとのこゝろなる絵
ふ

天保八年二月狩谷望之明所藏の古刻本を以て友人楊井基と左氏とより校合畢　同九月片岡寛光校本を以て再校

石渡貞固

以契沖阿闍梨自筆校本高本と校畢　寛光

文化十三年八月

天保十二年十月亡友石川雅望より自ら校合して呉人名本を友人谷本千春名しかりそし見たるこゝろ校合し校めぬ

丙九二再識

學習院藏原本により二度校明治廿六年

110X
495
21